

人権啓発 だより

賀露

第18号

賀露地区
人権啓発推進協議会
(賀露地区公民館内)
☎(0857)28-1034

一年を振り返って

賀露地区人権啓発推進協議会

山根 一記

二〇二一年度は、昨年にくる新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて、当協議会の活動も縮小を余儀された一年となりました。

こうした状況の中、第1回協力員研修会は「SDGsについて」と題し、鳥取市企画推進部の渡邊大輔さんからSDGsの概要と鳥取市の取り組みについて、また「持続可能な取り組みを日常生活の中に」と題して人権情報センターの福壽みどりさんからSDGsの具体的な取組内容を身近な視点でわかりやすく講演していただきました。

第2回協力員研修会は賀露小の人権教育推進委員と共催し「なくそうコロナ差別!!」と題し、人権情報センターの田川朋博さんに講演していただきました。コロナ禍で表出したさまざまな課題や、差別と偏見をなくすために感

染症に対する正しい知識と情報を持つことの大切さを改めて学ぶことができました。

現地視察研修は、岩美町にある薬物依存症リハビリ施設「NPO法人ダルク」を訪れ、施設での取組内容や依存症の方の人権について学習しました。



第2回協力員研修

また各町内の小地域座談会は、全町内で実施する予定でしたが、新型コロナウイルスの感染力が非常に強い「オミクロン株」が急拡大し、二カ所の町内で開催を見合わせることとなりました。本年度は、「いのちに寄り添う」「ともに生きる私達の未来」「やさしくの意味」のDVD研修をそれぞれ実施していただきました。

今後研修の成果を活かして賀露地区が差別や偏見のない住みよい地域となることを切に願う次第です。今後とも皆様のご協力よろしくお願い致します。

ハラスメント研修

自治会主催

「ハラスメントの防止に理解を」

9/3

講師 ファザリングジャパン中国事務局長
鳥取県人権アドバイザー 佐藤 淳子さん



男性が女性に、生年月日や年齢、子供の有無など平気で聞く姿。下ネタを話し、それが賀露の伝統だと思いい、言っている姿。そういう地域の雰囲気はなくそうと、自治会は考えています。自治会として、ハラスメント(人への嫌がらせ・いじめ、差別など)や、

セクハラ・ジェンダー(社会によって作られた男性像・女性像、性別による固定的役割分担)について、今後も研修会を開催し、多くの方に勉強解をお願いしたい。

職場だけでなく、地域の日常生活は誰にとっても大事な人生。女性が嫌がる・不快に思う雰囲気(ある意味風土といえる)にさせない地域にしたい。そのためには、女性が発言・意見を言える風土・地域になることが必要。

自治会役員に女性役員を作りたい。賀露の女性に堂々と意見を言ってもらいたい。セクハラ・パワハラ・モラハラなどあれば、指摘する勇気を。今後、そのための雰囲気づくり、様々な役割を果たします。

(自治会 芥島 寿美)



ハラスメント研修

小地域座談会

今年度は8町区に於いて身近な人権問題、同和問題を題材にしたDVD視聴後、鳥取市人権教育推進員 田中さん、松島さんが内容のまとめをされました。自治会、各区役員、賀露地区推進員、協力員の方にお世話になりました。参加をいただきありがとうございました。



3区

「ともに生きる私たちの未来」 『部落差別解消推進法がめざすもの』

【内容】 ネット社会における差別行為や人権侵害の深刻化など、部落差別はまだまだ存在する。差別を解消するにはどうすればよいか、一人ひとりの課題として考えることが大切と出演者は伝えている。

参加して：
・認知症になっても感情は残っている。人格を傷つけないよう言葉遣い、接し方に気を付けたい。
・ひとり歩き（徘徊）による事故を防ぐには町内で情報を共有することが重要と聞き、当事者や家族に配慮した良い取り組みと思った。



2・4区・上浜区

「やさしく」の意味 『おばあちゃん』は認知症だった

【内容】 小学生（4年）が、同居する認知症の曾祖母や介護を仕事とする祖母とのふれあいを通して「やさしくする」ことの意味を理解しながら成長。認知症患者や家族、そして彼らを取り巻く社会。一人ひとりが安心して暮らしていくための工夫を示唆している。

5・7・8・西浜区

「いのちに寄り添う」 『ターミナルケアと人権』

【内容】 二組の「いのちに寄り添う」人々に密着取材。一組目は認知症と癌を抱える父の意思を尊重し自宅で最期を迎えるよう介護しながら寄り添う息子。もう一組は癌治療しながら働く仲間へ寄り添う上司と担当医。誰もが自分らしく誇り高く最期まで生きられるように、正しい知識を身につけることは大切な人のいのちの尊厳を守ることと伝えている。



参加して：
・実際に起きている差別事象について認識できたので今後も意識を高めなくてはならないと感じた。
・差別解消に向けて次世代に継承し、地道な啓発が必要。

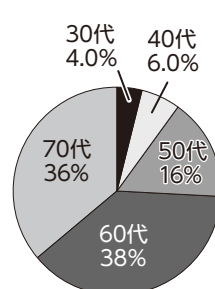
参加して：

・自分事として真剣に考えることが大切。家族と一緒に話し合う機会を持ちたいと思った。
・人の命と尊厳に関わる難しいけど大切な問題。まず当事者がこうありたいという思いを尊重し、受け入れることが大切だと感じた。

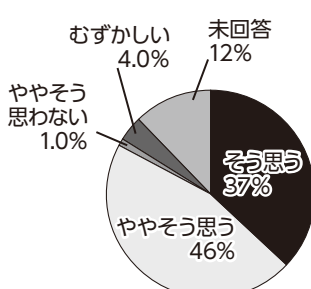
小地域座談会 アンケート結果

今年度の参加者の回答をまとめました。

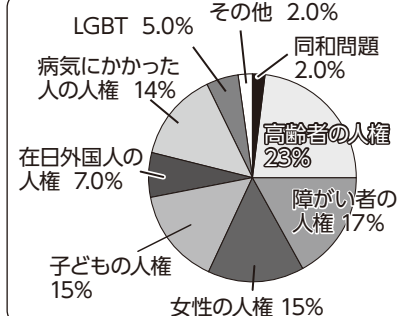
①参加者年齢



②この研修は普段の暮らしにいかせるか？



③今後取り上げて欲しい学習内容



人権啓発協力員研修

第一回協力員研修会

「SDGsについて」

5/28

講師 鳥取市企画推進部次長兼
政策企画課長 渡邊 大輔さん

「持続可能な取り組みを
日常生活のなかに」

講師 鳥取市人権情報センター
主任研究員 福壽みどりさん



最近よく目にするSDGsとは何か、私たちの生活にどのような関係があるのでしょうか。

SDGsとは二〇一五年の国連サミットで採択された持続可能な開発を達成するための目標です。持続可能な開発とは「将来の世代の欲求を満たしつつ、現在の世代の欲求も満足させるような開発」のことで、世界共通の17の目標と、それらを達成するための具体的な169のターゲットで構成されています。

17の目標の中には、①貧困をなくそう、③すべての人に健康と福祉を、④質の高い教育をみんなに、⑧働きがいも経済成長も、⑪住み続けられるまちづくりを…など、私たちの身近な問題ばかりです。

そして、169の具体的なターゲットに



「健康診断を定期的に受ける」「家事を平等に分担する」「使っていない電化製品のコンセントは抜き、電気はこまめに消す」「助けが必要な人を見かけたらサポートする」「食材は適量を購入し食べ残しをやめる」「ごみの分別を行いリサイクルに貢献する」「選挙に行き、政治に参加する」など、私たち一人ひとりにもできることが数多くあります。

SDGsでは「誰一人取り残さない」という理念を掲げていて、その前文には「すべての人々の人権を実現する」と宣言されています。つまり、SDGsには人権尊重の理念が基礎にあります。全ての人が尊重される社会にするために、SDGsを特別なものとしてではなく、「自分ごと」として捉え、生活の中に取り入れていくことが大切です。

(濱中 千景)

〈参加者感想〉
「誰ひとり取り残さない世界を目指して」という言葉が印象的でした。家庭内で取り組めることを考えたり、子どもたちに世界の流れを伝えていく必要があると感じました。

第二回協力員研修会

賀露小人権教育推進員共催

「なくそう!!!コロナ差別」

11/30

講師 鳥取市人権情報センター

研究員 田川 朋博さん

コロナウイルス感染症は日本では二〇二〇年2月にクルーズ船が日本に入港してから始まり、現在も続いている現状です。感染者からの感染の可能性があるのは発症の2日前から発症後7〜10日間程の接触とされています。

その中で様々なコロナ差別が起きています。感染者探し、県外ナンバーへの嫌がらせ、SNS、インターネット掲示板などがあげられます。感染症はだれもがかかる可能性があります。感染した人が悪いわけではありません。感染者に差別言動しない、回復したら温かく迎える、安心できる地域社会を目指したいと思います。

(雁津 敏明)



〈参加者感想〉
正しい知識、情報を得ることが大切。不確かな情報に振り回されず、対応策、啓発を根気よく進めていかねばならないと思った。

現地視察研修

「薬物依存症リハビリ施設
ダルクを訪ねて」

12/2



ダルクとは何か?と思う人が多いと思います。ダルクとは薬物依存症からリハビリをし、社会への復帰を目指している施設です。薬物依存のはじめは私たちでも手の届く風邪薬、鎮痛剤の乱用から入っていく人もいます。

心の中の誰にも言えないストレスや心の痛みを感じ、薬が増え、量が増え、違法なものに手を出してしまい、それが重なり依存症という病気になるのだと学びました。

依存症からの脱却は心の中の叫びをさらけ出すこと、それを受けとめ受け入れてくれる誰がいること。

“過去と他人は変えられないが、未来と自分は変えられる。”
ダルクに入所している人たちに明るい未来が来てほしいと願うと同時に、私たちに何ができるだろうかと考えさせられた研修でした。

(網師 かよ子)

公民館共催事業



研修で知ったことを是非、身近な人に伝えてください」

お話より「あいサポーター運動のねらいは多くの人に障がい

松田 禎人さん

2/9

あいサポーター研修 参加22名

社会福祉協議会 主催
講師 あいサポーター
メッセンジャー

〈感想〉見ただけではわからない障がいが多いことを知った。障がいを自分ごととして捉え、サポートできたらよい。

間違った知識や知らないことから生まれる差別、偏見、無関心など『意識のバリア』を取り除き共生社会の実現を目指しましょう。



今年度の実施状況(2021)

- 総会・第1回協力員研修 5/28(31名)
「SDGsの推進について」 渡邊大輔さん
「持続可能な取り組みを日常生活のなかに」 福壽みどりさん
- 第2回協力員研修 11/30(34名)
「なくそう!! コロナ差別!!」 田川朋博さん
- 現地視察研修 「薬物依存症リハビリ施設ダルク」12/2(11名)
- 小地域座談会
 - 2区 DVD 「やさしくの意味」 11/27(9名)
 - 3区 「ともに生きる私たちの未来」 11/20(8名)
 - 4区 「やさしくの意味」 2/8(10名)
 - 5区 「いのちに寄り添う」 11/6(20名)
 - 7区 「いのちに寄り添う」 11/29(17名)
 - 8区 「いのちに寄り添う」 12/2(12名)
 - 上浜 「やさしくの意味」 11/7(15名)
 - 西浜 「いのちに寄り添う」 10/17(11名)
- 保小公連絡会 5/13 11/2 2/4
- 公民館事業 「国際交流 ロシア」 11/15(37名)
- 各団体主催(人推協共催)
 - 自治会主催「ハラスメントの防止に理解を」9/3(22名)
 - 社協主催「あいサポーター研修」 2/9(22名)
- 各種研修会参加
 - ・ 湖東ブロック研究集会(末恒) 9/11 コロナ感染拡大防止のため中止
 - ・ 湖東ブロック推進員研修・年度末総会(末恒) 2/26 コロナ感染拡大防止のため中止
 - ・ 推進員研修(鳥取市、年2~3回) (4名)
 - ・ 人権尊重社会を実現する鳥取県研究集会(8/6)中止
鳥取市民集会(8/19)中止
 - ・ 鳥取市人権教育協議会 代表者対象人権問題研修会 6/4(2名)
- 啓発活動
 - ・ 人推協だより18号発行・人権図書購入
 - ・ 賀露だよりの活用・ホームページ掲載

ロシアのお話とクリスマスケーキ
ロシアのイリーナ・チエブラコワさん(環日本海経済交流センター(長)がロシアの国の広さや気候、文化、言葉、衣装などを紹介。クリスマスのごちそうやケーキ、家族の過ごし方などお話をいただいた。子どもたち



11/15

国際交流(小学生29人 大人8人)



民族衣装を着たイリーナさんとロシアのダンスを一緒に♪

は遠い国の文化に触れることができた。

湖東ブロック人権啓発推進協議会

今年度は末恒地区が当番でした。

各研修、及び年度末総会の予定は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となりました。

ありがとうございました

自治会人権担当・人権啓発推進員として 雁津 敏明

自治会人権担当6年、人権啓発推進員を1年担当して、このたび退任することになりました。多くの研修会、小地域座談会に参加し、色々な人権問題の知識を得て大変良かったと思います。今後も学んだ知識を様々な場面で活かしていきたいと思います。

7年間ありがとうございました。

2021年度役員

会長 山根 一記 推進員 濱中 千景
副会長 小玉 健 網師かよ子
自治会 芥島 寿美 玉江 昭夫
雁津 敏明

玉江 昭夫さまは1月急逝されました。謹んでお悔み申し上げます。